

〔大饗雜事〕一名簿唐櫃一合 内黒、外朱、隅黒、

長二尺 弘一尺六寸五分 深九寸五分 足六 足下高三寸 蓋深一寸一分 足鐵菱釘十

八 每足三、 鑲鎰 漆黒

〔嫁入記〕一御物行やうのまだい 略 三ばん になひからびつ 略 中

一。に。な。ひ。か。ら。び。つ。おほひの事、きぬたるべし、になひの事ながれに二はたばりに、あしのもとま
でまばして、あしとおなじほどながきをするなり、ひらのかたは、きぬをよこにするなり、つまに
をのとをる所を、すこしほころばすなり、ぬいはじめのもとに、とぢかは有べし、かはの程はつね
の上下のとぢかはのほどなり、そめやう、そうはみづ色、すそをこくそむべし、くろ色なり、又一色
にもくるしからず、多分はすそご也、もんをつくるには、何にてもいは木のかたちを用ゆべし、む
もんにもする也、家のもんをも付、縫やうふせ縫也、すそをかやして縫べからず、たゞたちめのま
まをくなり、ちどりがけにまたるもよし、

一長。から。び。つ。のおほひの事、これもになひに同事なり、ながきまでの違ひなり、

〔調度口傳〕婚禮道具

一唐櫃の事

長 サ 二尺壹寸は、壹尺六寸、ふた甲貳寸五分、高 サ 壹尺、足六本、箱より三寸程あまるべし、ヲヒ足
なし、金具ひし鉦等あるべし、鉦紐等有べし、又鉦なく足を廻して紐を返す兩様なり、又串形板と
て、ふたのふちくし形の板を打、其板にくぼめたる所あり、其くぼ目に棒を當、足より布を通し、結
の兩様なり、
一。句。唐。櫃。の。事

大概唐櫃のごとくして足なし、引出しを付て、引出に香爐を入る、上のそこ板にすかしあり、